事例９　「ニコニコふれあいバス」
萩原町連区交通協議会 ＆ 愛知県一宮市交通政策課 ＆ スイトトラベル

■所在市町村　愛知県一宮市（113.8 ㎢、人口 384,790 人、高齢化率 26.8% ※2020 年４月）
■団体名　萩原町連区交通協議会
■市町村担当課名　一宮市交通政策課

萩原町の東部地域では、路線バスが 2000（平成 12）年に廃線となり、公共交通手段の無い地域となったため、「子供からお年寄りまで暮らしやすい地域にしたい」という思いから、路線沿線の自治会を中心にバス導入を検討。2006（平成 18）年に「萩原町連区交通協議会」が発足し、バスの運行についての勉強会を経て、バス運行ルートやバス停の位置、運行ダイヤなどを地域住民の協議により決定した。2007（平成 19）年に市が交通事業者に委託運行する形で運行を開始。地域の企業からの協賛金を集めたり、アンケート調査で利便性について見直しを図ったり、地域の祭り行事などで PR したりしながら、地域住民と地域の企業が支えるバスとして運行を続けている。

運転者や運営・事務局担当者の属性（母集団等）、増減とその原因

①協議会は役員と町内会長から構成

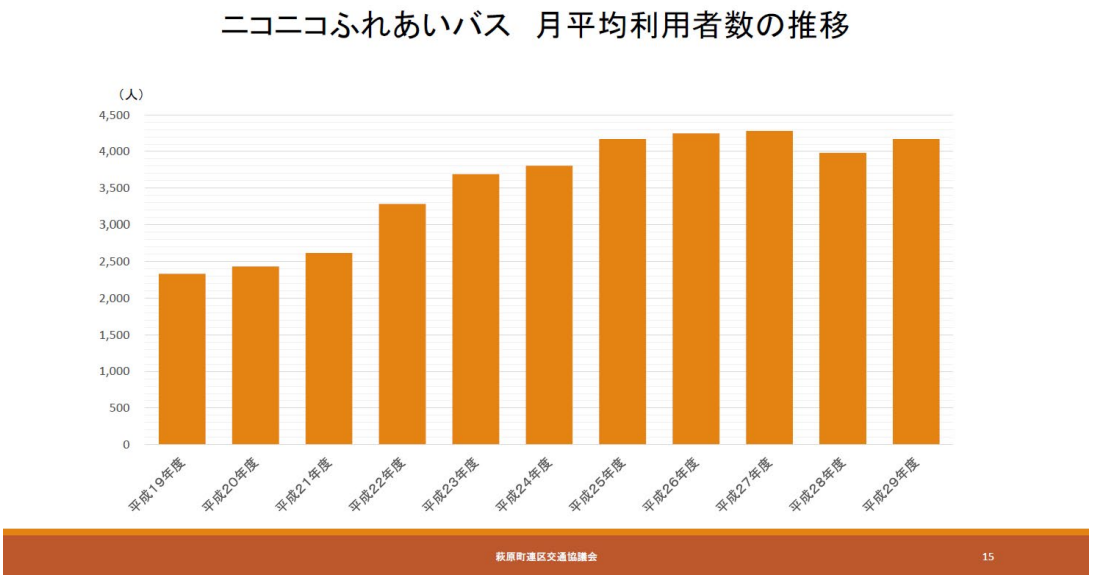
- 協議会は役員と町内会長から構成されており、役員 10 名ほどはバスの運行当初から関わっているメンバー、町内会長は 2 年任期の充て職である。町内会長の中にめぼしい人がいた場合、会長が指名して役員になってもらう仕組みとなっているが、あまり入れ替わりがなかったため、昨年から年に 2 名ずつ新たな役員を入れる形にしている。人数の増減はない。なお、協議会の人事について市役所から口出しは一切していない。
- 運転業務はスイトトラベルに委託しており、専門チームが担当している。

利用状況の変化（利用者の状態、利用者数）とその要因

①2007 年の運行開始以来順調に増加傾向

- 2007（平成 19）年の運行開始以来順調に増加傾向が続いている。2007 年度には月平均 2,300 人程度の利用であったが、近年は月平均 4,000 人程度になっている。
- 主な利用は通院と買い物であり、運行当初から変化はない。
- 利用のピークは 2015（平成 27）年度。当時の会長が利用促進に積極的に取り組み、史跡巡りをした結果である。
- 今年は新型コロナの影響で利用が落ち込んでおり、4～5 月に 6 割減となった。6 月以降は

回復しているが、通年で前年比 6～7 割程度の見込み。



出典：愛知県主催　平成 29 年度「エコ モビリティ ライフ推進表彰」表彰式　取り組み発表資料より

財政状況の変化とその要因

①運行経費は、運賃、沿線企業の協賛金、市の補助金

- 運行経費は、運賃、沿線企業の協賛金、市の補助金でまかなっており、変化はない。協賛金は協議会メンバーが地元企業を回って集めている。

行政や社会福祉協議会等との関係、地域の反応とその要因

①協議会の運営は自主的に

- 協議会の運営は自主的に行われており、市は助言する程度。

見どころ

①毎年、地域でお祭り（記念感謝デー）

- バスの出発式を行ったことがきっかけとなり、毎年、地域でお祭り（記念感謝デー）が行われるようになるなど、地域活動が行われるようになったことが最大の特徴。
- 10 周年の際には記念感謝デーにおいて、協賛企業や協力者を表彰したほか、10 周年記念誌を発行するなどの取り組みも行われている。
- 利用実態調査は毎年、協議会メンバーが車内に乗り込み、利用者のアンケート調査を行っている。

課題

①朝夕の増便や萩原駅への結節の要望

- ダイヤ・ルートは運行当初から変更がないが、朝夕の増便要望や、萩原駅への結節の要望はある。ただし、費用の関係から実施は困難である。

■活動概要

運行日：毎日（12 月 29 日～1 月 3 日までは運休）

運賃：1 乗車大人 200(※100 円)・小学生 100 円(※50 円)（小学校入学前は無料）

※（　）内は身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方で、降車時に手帳を提示された方及び介添えのための付き添い者（介添えが必要な方 1 名に対して 1 名まで）の運賃

車両：車いす対応、1 台

回数券：100 円券で 11 枚つづりを 1,000 円で販売

運行事業者：スイトトラベル（株）